



キャンドルイベント 小学生の笑顔を照らす

江戸川大学
仮想広告会社「エド・アド」も協力

昨年12月12日と13日に流山おおたかの森・C前の広場で、クリスマスの恒例行事のキャンドルイベントが行われた。「森のマルシェ実行委員会」が主催し、今年で9度目の開催となる。小学生たちによって描かれたおおよそ2000本のキャンドルポットが広場に灯り、2日間ともおおくの人が訪れた。(文: 松原太郎 撮影: 守谷信・原田龍也)



左上と右下: 自分の描いたキャンドルを探す小学生
右上: キャンドルポットを見つけ喜ぶ姉弟 左下: 賑わいを見せるイベント広場 右下中央: OTAKA NO MORI とハート型に並んだキャンドルポット

イベント当日は前日に比べて冷え込んだが、社長の古澤美穂さんは「怪我の無いよう、寒さに負けず頑張ります」とイベント開始前から意気込んでいた。

午後5時点灯式がはじまった。綺麗な列に並べられたキャンドルが灯されていくと、小学生たちから歓声があがった。

小学生たちは、たくさんのキャンドルポットの中から自分が作ったものを探し、見つけると嬉しそうに保護者に自慢していた。並べられたキャンドルポットの間を走り回る小学生たちが転んでけがをしないよう誘導に気を引き締める一方で、子どもたちの笑顔を見てスタッフにも笑顔が浮かんでいた。会場の一面では大きな文字やハートがキャンドルポットで描かれ、多くの人が見入っていた。

描かれた絵の一番人気は、季節柄か雪だるま。しかし同じ題材でもそれぞれの絵に個性や好奇心が溢れている。ひとつとして同じ絵はない。絵を見ていくと

会場内では子どもたちによる合唱や地域住民によるゴスペルライブも行われ、キャンドルイベントに賑わいをそえていた。

イベントに参加した小学生は「自分で絵を描いた

キャンドルポットには、近隣の小学生がクリスマスをテーマに絵を描いた。長崎小学校、小山小学校、八木北小学校、西初石小学校、おおたかの森小学校の5校の小学生たちおよそ2000人だ。また約20人のスタッフのうち、江戸川大学内の仮想広告会社「エド・アド」からも10人が参加した。エド・アドの学生社員たちは、キャンドルポットを並べる作業や誘導、片付けなどで両日とも活躍した。



キャンドルを点火するエド・アド社員



右: エド・アド社長の古澤美穂さん
左: エド・アド次期社長の廣島里菜さん

でも時間を忘れる。キャンドルの灯りだけでなく絵にも惹きつけられるイベントだった。

それぞれのこのイベントへの想いがつたわって、小学生たちと地域住民やスタッフが一体となって作り上げたイベントだった。

また、今回「エド・アド」と協力してイベントをプロデュースした「株式会社スマイル&アソシエイツ」代表取締役の中島良平さんは「イベントの規模をもっと大きくし、たくさんの人に参加してもらうことで、地域住民との触れ合いを増やしていきたい」と話す。

「エド・アド」次期社長の廣島里菜さんは「来年も小学生たちが楽しんで地域の高齢の方々も参加してもらえように頑張りたい」と抱負を語った。

訪れていた人も「昔はこういった催しが無かったので、続いてほしい」といった声が相次いだ。

キャンドルポットに灯りがついてとても嬉しい」「来年も参加したい」と笑顔で話してくれた。イベントに